インナー大会プレゼン部門 2018　専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）トウヨウダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）スズキゼミナール
東洋大学	経営学部	鈴木ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有 ・ 無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）	PPT 内動画（有・無）	動画使用スライドページ
フリガナ）チームベルビー	フリガナ）ジンボ ヒカル			
チームベル B	神保 光瑠	5 人	無	無

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。
これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物　（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）
ホームページの QR コードを記載したプリント、提案に用いる 2 種類のシート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただいております。あらかじめご了承ください。

研究テーマ（発表タイトル）
教育格差是正のために貧困家庭の子どもの学力向上を支援したい！

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1．研究概要（目的・狙いなど）

本研究は貧困家庭の子どもに対し、学力向上の一助として学習方略を身につけてもらうことを目的とする。

現在、18 歳以下の 7 人に 1 人の子どもが相対的貧困に陥っている。相対的貧困は、一定基準を下回る等価可処分所得しか得ていない者のことを指し、具体的には 2 人世帯で約 173 万円、3 人世帯で約 211 万円以下の生活をしている層である。さらに貧困の問題点として、貧困家庭の子どもは学力が低い傾向にある。なぜなら、お茶の水女子大学の「平成 25 年度学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」によると、貧困家庭の親は傾向として教育への関心が乏しく、教育への投資も低いため、結果、教育格差が再生産されてしまうからである。

そこで、夜間大学に所属し様々な境遇の学生とともに勉学に励む私たちだからこそ、厳しい学習環境にいる子どもたちを支援したいと考えた。

2．研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本財団が行った「子どもの貧困の社会的損失推計レポート」によると、貧困家庭の子どもを放置すると 1 人あたりの生涯所得は約 1600 万円の機会損失、貧困家庭の子ども全体で換算すると約 40 兆円もの機会損失となる。さらに、1 人あたりの財政収入は約 600 万円の機会損失、貧困家庭の子ども全体で換算すると約 16 兆円もの機会損失となる。よって、貧困家庭の子どもを放置することは、日本の社会的損失になると言える。このような問題をはらむ貧困問題に対し、就労支援・経済支援・生活支援・教育支援の４つの側面から支援が行われているが、「教育格差の再生産」の根本的な解決につながると考え教育支援に着目した。

貧困と学力の関連性については、お茶の水女子大学の調査研究によれば、世帯収入と学力には相関関係があり、貧困家庭の子どもは学力が低い傾向にあるとされる。その理由として、学校外教育にお金をかけられない、親が子どもに教育面や生活面での働きかけができていない、親が子どもと十分なコミュニケーションが取れていないことが挙げられている。

そこで私たちは、貧困家庭の子どもの学習支援状況について現状を知るために、貧困家庭の子どもたちが多く通う無料塾でのボランティアを４団体で行い、無料塾運営者の方１３名にインタビューした。そこで見えた課題が大きく分けて３つある。それは、①子どもが勉強で何がわからないのかわかっていないこと、②自分の能力を諦めてしまい自己効力感が低いこと、③学習習慣が身についておらず集中が続かないことの３つである。そこで私たちはこの課題を解決するために、学習方略を身につけることが有効であると考えた。学習方略とは、学習の効果を高めるために学習者自身が自ら勉強法を考え、計画し、工夫することである。学習方略は 3 つに細分化され、１つが勉強方法を考えることを意味する認知的方略、２つが進捗状況を把握することを意味するメタ認知的方略、３つがモチベーションの向上、維持を意味する動機づけ方略である。ベネッセ教育総合研究所によると、学習方略の獲得は学業成績の向上に有効であり、学習時間は学歴や世帯収入などが影響しているが、学習方略はそれらの影響が少なく、家庭の経済的な要因よりも子ども自身の影響が強いとされる。これより、学習方略を身につけることは、貧困家庭の子どもが学力向上を目指す上で効果的であり、教育格差是正に有効であるといえる。

３．研究テーマの課題

本研究テーマの課題は、教育格差是正のために貧困家庭の子どもの学力を向上させることである。その目的を達成するために調査した結果、子どもたちの課題が大きく分けて３つ判明した。①子どもが勉強で何がわからないのかわかっておらず、どう勉強していいか分からないこと、②自分の能力を諦めてしまい自己効力感が低いこと、③学習習慣が身についておらず集中が続かないことの３つである。

貧困家庭の子どもの学力を向上させるために、これらの３つの課題を解決する必要がある。

４．課題解決策（新たなビジネスモデル･理論など）

上記３つの課題を解決するために私たちが提案するのが「ぐんのびシートと達成シートの活用」である。

この提案の前提となっているのは、振り返りを促すことが子どもの学習方略獲得に有効であるといわれているからだ。教育分野における学習方略の研究に取り組む伊藤崇達先生は教育誌のインタビューで、実践的な手段として、「踏み込んだ」振り返りシートを提唱している。従来の振り返りシートは理解できたか、のみを振り返っていたが、踏み込んだ振り返りシートでは、どんな風に勉強したか、自分の学び方を振り返りその上で指導者が学び方のヒントを与えることで、子どものより深い振り返りを促すシートである。

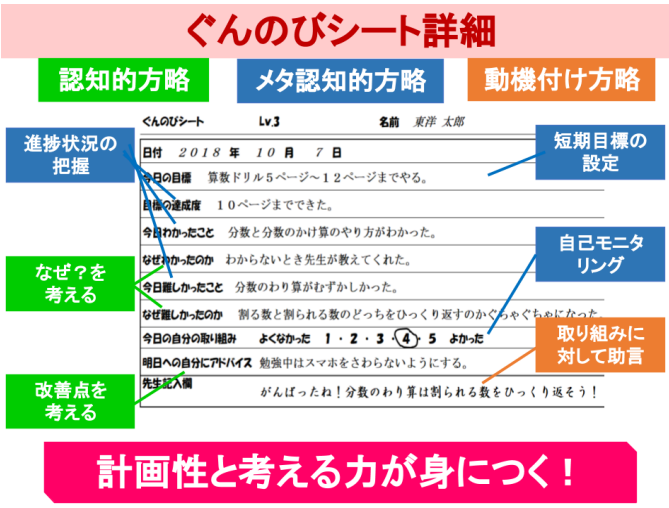
そこで私たちは、振り返りシートに工夫を加えて、学習方略を身につけるためにより効果的なシートを作成すればよいのではないかと考えた。

また、この提案のターゲットは無料塾に通う子どもとした。なぜなら、無料塾には貧困家庭の子どもが多く通っているからである。私たちが調査したある無料塾では約９割の生徒が相対的貧困に相当する家庭の子どもであった。

【概要】

学習の際、指導者と子どもたちに計画性と考える力が身につく「ぐんのびシート」と勉強の達成状況がわかり継続しやすい「達成シート」を活用してもらう。「ぐんのびシート」は【図１】のように項目に記入することで認知的方略、メタ認知的方略、動機付け方略の３つが身につけられる。「達成シート」は【図２】のように項目に記入することでメタ認知的方略、動機付け方略が身につけられる。

【図１】



【図２】

【施策のメリット】

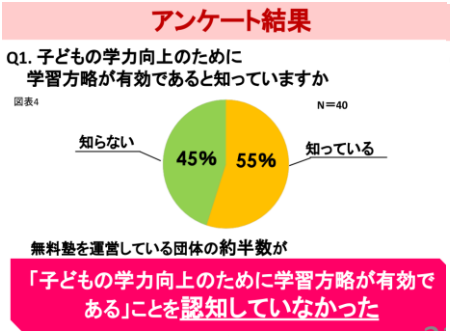
この施策のメリットとして、①勉強でわからないことが明確になり、また、わからないことを解消するための効率的な勉強方法を考える力が身につくようになる。 ②わかったことが認識できたり、目標を達成した経験を得たりすることにより自己効力感が高まる。 ③目標を設定することで、メリハリがつき勉強に集中しやすくなることが挙げられる。さらに、指導者側のメリットとして、シートを見ることで子どもの理解度を把握することができ指導しやすくなることが挙げられる。

以上から、私たちの提案である「無料塾における、ぐんのびシートと達成シートの２種類のシートの活用」により、研究テーマの課題解決ができる。

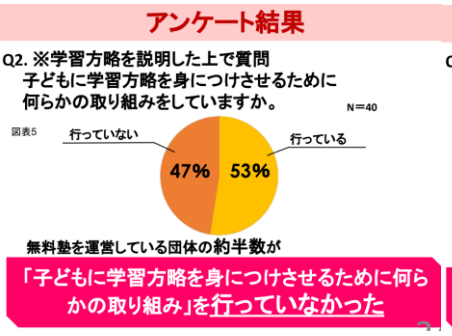
５．研究･活動内容（アンケート調査、商品開発など）

学習方略と施策に対してのアンケートを無料塾の団体に行うと共に、有識者と無料塾の運営者の方にインタビュー調査を行なった。まずアンケートでは、「（Ｑ１）子どもの学力向上のために、学習方略が有効であると知っていますか」という質問には「知っている」が５５％で、「知らない」が４５％だった。また、「（Ｑ２）子どもたちに学習方略を身につけさせるために、何らかの取り組みを行っていますか」という質問には５３％の団体が「行っている」と回答した。しかし、「（Ｑ３）Ｑ２で取り組みを行っていると、お答えの場合、その取り組みは十分ですか」という質問に対し、８１％の団体がその取り組みには「不十分」との回答をした。つまり、無料塾の約半数は学習方略を認知しておらず、また、大半の団体が、認知していても取り組みは不十分であることが明らかになった。以上のことから、無料塾に対し、学習方略面での支援をすることが有効であると考えられる。

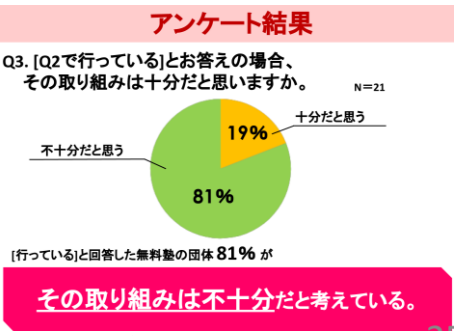
（Ｑ１）



（Ｑ２）



（Ｑ３）



また、私たちが提案する２種類のシートを現場の需要に即したものにするため、無料塾運営者１３名と大学教授２名にインタビュー調査を行った。提案に対しての好評や改善案を頂き、提案の有効性を高めることができた。具体的には、「勉強が出来る子でないと施策は難しい」とのご意見を頂いたので、３段階の難易度別のシートを作成し、幅広い子どもに対応できるようにした。また「テスト前以外は勉強習慣がなく続かない」とのご意見も頂いたので、達成シートに中間地点を設け目標を達成しやすくし、勉強のやる気を継続的に引き出すようにした。更に、子どもにとって達成したことが大切であるため、内容を簡略化したシートを作成し、子どもに寄り添った内容にした。併せて、「指導者マニュアル」を作成し、ボランティアが多く指導者が入れ替わりやすい無料塾でも均一した指導ができるようにした。

この２種類のシートと指導者マニュアルを誰でも容易にアクセスし、継続的に印刷して利用できるようにホームページの作成を行った。また、ホームページに施策の意見や問い合わせが出来るフォーマットを設けることにより、利用者の要望を素早く収集できるようにした。

６．結果や今後の取り組み

今後の取り組みとして、今までメールでのやり取りをしていた団体の中で本施策に対しご賛同頂いている無料塾運営者の方々へシートを提供し、検証・導入していく。その上で改善を重ね、全国の無料塾に普及させたいと考えている。その普及方法として、全国の団体に無料塾にホームページを紹介し、施策の導入を促進する。また、無料塾や子どもの学習支援に関わる記事を随時ホームページに投稿することで、学習支援を行っている方々が「貧困」や「学力」などで検索した際に、ホームページにアクセスできるようにするなどの、ウェブマーケティングを展開する。

７．参考文献

・浅野志津子(2002)『生涯学習参加に影響を及ぼす学習動機づけと学習方略 ： 放送大学学生を対象にして』風間書房
・新井直之(2014)『チャイルド・プア-社会を蝕む子どもの貧困-』TO ブックス
・池田利道(2015)『23 区格差』中央公論新社
・伊藤崇達(2009)『自己調整学習の成立過程-学習方略と動機付けの役割-』北大路書房
・自己調整学習会(2016)『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房
・自己調整学習研究会(2012)『自己調整学習-理論実践の新たな展開-』北大路書房
・辰野千壽(1997)『学習方略の心理学-賢い学習者の育て方-』図書文化社
・中室牧子(2015)『「学力」の経済学』ディスカバートゥエンティワン
・日本財団 子どもの貧困対策チーム(2016)『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす-社会的損失 40 兆円の衝撃-』文春新書
・藤田 正・岩田 充宏(2002)「小学生の自己調整学習に関する研究（Ⅱ）」『奈良教育大学学術リポジトリ NEAR』11 巻 63―68
・八木 真由美（2017)「子どもの貧困をめぐる現状と教育行政の役割に関する一考察 ： 貧困の連鎖を断ち切るための教育支援 を中心に 」『甲南大学教職教育センター年報・研究報告書 』2017 年度 65-75
・伊藤崇達 (2008)『「自ら学ぶ力」を育てる方略-自己調整学習の観点から-』
https://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/2008/07/pdf/13berd_03.pdf(2018-07-29)
・伊藤崇達(2017) 「生徒の振り返りと自己調整学習について」http://www.kyousei2.hokkaido-c.ed.jp/?action=cabinet_action_main_download&block_id=31&room_id=29&cabinet_id=5&file_id=93&upload_id=144(2018-8-2)

・加瀬進(2014)「平成 25 年度厚生労働省社会福祉推進事業 子ども・若者の貧困防止に関する事業の実施・運営 に関する調査・研究事業 報告書」
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/dl/sankoushiryou_h260630-01.pdf(2018-6-22)
・厚生労働省(2015)「平成２７年国民生活基礎調査」 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/index.html(2018-6-25)
・厚生労働省(2015)「子どもの貧困対策における生活困窮世帯の子どもの学習支援等」
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0914_shiryou04-2_1.pdf(2018-6-25)
・厚生労働省(2015)「生活困窮世帯の子どもの学習支援事業 実践事例集【速報版】」
https://www.google.co.jp/url?sa=t&source=web&rct=j&url=http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0126_sanko05.pdf&ved=2ahUKEwiAp-S30_PbAhWJJ5QKHcG9C3sQFjAAegQIARAB&usg=AOvVaw1QMh7qgVhBaImyJnpXsR5z(2018-6-25)
・厚生労働省(2016) 「生活困窮者自立支援法の施行状況と主な課題について」http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/shiryou2_4.pdf(2018-6-29)
・国立大学法人お茶の水女子大学(2013)「平成 25 年度学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」
http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/hogosha_summary.pdf(2018-9-15)
・総務省統計局(2017)「人口推計(平成 29 年 10 月 1 日現在)」
https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2017np/index.html(2018-9-1)
・内閣府(2014)「子供の貧困対策に関する大綱」www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/pdf/taikou.pdf(2018-6-25)
・内閣府(2016)「子供の貧困の状況と子供の貧困対策の実施状況」
https://www.google.co.jp/url?sa=t&source=web&rct=j&url=http://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/yuushikisya/k_1/pdf/s2_all.pdf&ved=2ahUKEwiFla7gOvPbAhUCmZQKHeBOAXkQFjADegQIAxAB&usg=AOvVaw1iXSUi83qKJ7r71gk-kkNp(2018-6-25)
・中室 牧子、益川 弘如(2016)「平成 28 年度 学力・学習状況調査データ分析結果(概要)」
https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/documents/houkokusyogaiyou-hp.pdf (2018-07-30)
・日本財団(2015) 「子どもの貧困の社会的損失推計」
https://www.Nippon-foundation.or.jp/news/articles/2015/img/71/1.pdf (2018-6-24)
・ベネッセ教育総合研究所(2008)「学習意欲一どう捉え、どう向き合うか」
https://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2008_13/tobira.html(2018-8-2)
・ベネッセ教育総合研究所(2015)「小中学生の学びに関する調査報告書」
https://berd.benesse.jp/up_images/research/Survey_on_learning_report_4.pdf(2018-9-2)
・NPO 法人さいたまユースサポートネット(2015)「生活困窮者自立支援法に基づく学習支援事業に関する調査」
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000018249.html (2018-6-22)
・ BERD(2008)13 号「自ら学ぶ力」を育てる方略―自己調整学習の観点から―https://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/2008/07/pdf/13berd_03.pdf(2018-07-29)

＜企画シート作成上の注意＞

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください